



安心安全な学校づくりをめざして

学校長 中山 光恵

9月

夏休みが明けて、子どもたちが元気に登校してきました。「命にかかわるような暑さ」が続いた夏休みでしたが、どの子も身体が一回り大きくなり、友達に夏の思い出を話す楽しそうな声で教室は活気に満ちています。子どもたちが心も身体も大きく成長した夏休みであったことをたいへんうれしく思います。

これから秋に向けて、修学旅行や宿泊学習、校外学習など、様々な学校行事を予定しています。11月には創立150周年の記念行事もあります。教育活動が充実するこの時期は特に、一人ひとりのがんばりや友達と協働することを通して、大きく成長するとともに、心に残る思い出をたくさんつくってほしいと願います。何事にも主体的に取り組む児童の育成に向け、職員一同、充実した教育活動が展開できるよう、全力を尽くしてまいります。

さて、今年は何東大震災から100年目の節目を迎えます。1923年(大正12年)9月1日11時58分に、相模湾北西部を震源とするマグニチュード7.9の地震(大正何東地震)は、発生が昼食の時間と重なった事から多くの火災が起きて被害が拡大しました。この地震によって生じた災害が「何東大震災」と呼ばれているのは周知の通りです。そして、その発生日である9月1日が「防災の日」、この日を含む1週間が「防災週間」と定められています。本校では、毎年防災週間の期間中に総合防災訓練を実施しており、今年は何31日に行う予定です。

本校では、避難訓練として、地震と火災、不審者への対応訓練を実施しています。地震はその大きさや津波のあるなしによって、火災は出火場所によって避難経路が異なります。授業中で職員の指示がすぐ聞ける場合や休み時間など自分で判断しなければならない場合もあります。また、慣れてきたら訓練があることを予告せずに行うなど、1年間で一通りのパターンが身に付けられるよう、訓練計画を立てています。

総合防災訓練は、例年大きな地震で津波が来ることを想定して行っていましたが、本校が海に近い学校であることや、保護者の引き取りの手順は早いうちに知らせ、訓練しておいた方がよいという考えから、今年度は5月に大地震による津波を想定しての垂直避難(3階への避難)と保護下校訓練を実施いたしました。8月31日に実施する総合防災訓練は、津波の心配はないが地震により火災が発生したという何東大震災に近い想定で行おうと考えています。

子どもたちには、「自分の身は自分で守る」を意識し、適切に判断できる力を培ってまいります。ご家庭でのご理解とご協力を、どうぞよろしくお願いいたします。